

平成 29 年度鈴鹿工業高等専門学校入学式（学科） 校長式辞

本日、春の香りが満ち溢れ、桜花美しきこの良き日、平成 29 年度鈴鹿工業高等専門学校入学式を挙げていただけますことを、大変嬉しく思います。難関を突破し、入学許可を受け、名実ともに晴れて本校の学生となった学科新入生 217 名、留学生 2 名の併せて 219 名の学生のみなさん、誠におめでとうございませう。本校を代表して心からお祝い申し上げますとともに歓迎いたします。

こうして新しい制服に身を包み、初々しさに満ちあふれ、まばゆいばかりの新入生の姿をみると、校長としても身の引き締まる思いです。私以上に、この良き日を心待ちにされていた保護者の方にとっては、さぞかし感慨無量のこととご同慶申し上げます。私ども教職員は託された責任の重さを改めて認識し、ご期待にこたえるべく気持ちを新たにしているところです。

さて、本校は、1962 年、国立高専一期校 12 校の一つとして創立し、すでに半世紀を経て、次なる 50 年に向けて「進化する高専」として歩み始めたところです。高専は当初は中堅技術者の養成を目的に創設されましたが、時代の変化と社会の要請に応え、15 歳の中学卒業生を受け入れる 5 年一貫教育を基本としつつも、大学編入、専攻科の設置、学校の再編統合などを進め、高等教育機関としての性格をより強め、実践性と創造性を備えた地域と世界の両方で活躍する、科学的思考を身に着けた高度の技術者の養成に努めるようになりました。

鈴鹿高専においては、当初、機械工学科、電気工学科、工業化学科の 3 学科体制で船出しましたが、いくつかの改組・拡充を経て、現在では、学科は機械工学科、電気電子工学科、電子情報工学科、生物応用化学科、材料工学科の 5 学科により構成され、学科卒業生が進学する専攻科には総合イノベーション工学専攻が設置されています。現在、学科生 1071 名、専攻科生 60 名、合計 1131 名、内留学生 7 名となっています。さらに、本校からは、今までに約 8000 人の卒業生が巣立っていきました。卒業生の活躍ぶりは、ものづくりを担う企業の社長や幹部として、大学・高専等の教員・研究者として、国内外において活躍する人材として、高く評価されています。

さて、本校は、知・徳・体 三育の全人教育を建学の精神とし、勉学、海外研修、インターンシップ、学会での研究発表、そして体育系や文化系、各種プロジェクトなどに関する課外活動、さらには高専祭やオープンカレッジなどの各種イベントに積極的に取り組んでいます。私は、校長として 6 年目を迎えましたが、毎年、学生たちの素晴らしい力を再認識しています。各種学会での研究発表会やエコカー、ロボット、プログラミングなどのコンテストでの受賞、全国高専・高校体育大会や文芸大会での数多くの優勝・入賞など、様々な分野からの表彰は鈴鹿高専が全国的に高い評価を受けていること示しています。

皆様にはこの素晴らしい鈴鹿高専の伝統を誇りに、さらに一層発展させていただきたいと思ひます。それには、学生の本分である学業を基本に、課外活動、社会貢献などを通じ、自分を見つめ、そして自分をつくりながら、着実に知徳体がバランスよく発達するよう努力することが必要かと思ひます。そして、「地域に根差し、世界に羽ばたく、クリエイティブな鈴鹿高専」づくりに、さらに言えば地域から信頼される鈴鹿高専に向けて努力していただきたいと思ひます。そして、皆さんは未来の技術を担うエンジニアの卵です。すべ

ての人が自然と共生しながら幸せに豊かに暮らせる持続可能な社会づくりに貢献する人に育ってほしいと思います。

皆さんが生きる時代、活躍する社会は、人口が減少し、高齢化が進む時代でもあります。そして、技術も今までとは大きく違ったものになるでしょう。新たなニーズにこたえ、社会を豊かに変革できる、挑戦し甲斐のある時代ともいえます。

最近、脚光を浴びているジェレミー・リフキンは、著書「限界費用ゼロ社会」において、現代は第三次産業革命の時代に突入していると言っています。第三次産業革命とは、エネルギーが第一次産業革命の石炭、第二次の石油に由来する時代から、第三次は太陽光、風力、バイオマスなどの再生可能エネルギーへ、通信手段が電信、電話を経てインターネットの時代へと変化していると言い、モノづくりもこれからの時代では、IoT(Internet of Things)技術を駆使して、限界費用がほぼゼロになる社会に突入すると言っています。

限界費用とは、モノを一単位、一個でもいいですが、追加生産するのに必要な費用のことを指します。例えば、3Dプリンターが普及すれば、インターネットを介した無料の製造ソフトを活用し、安い材料を用いて極めて安く生産できるのです。いずれ、車はもちろん家まで3Dプリンターで作ることができると言われています。

もしこのような時代が来ると、技術者の価値はどこにあるのでしょうか。どんな価値を実現したらいいのでしょうか。皆さんには、社会や技術の動向を見据えて、自分のあり方、活かし方を考えていただきたいと思います。これからの社会は、より人間が人間らしく生きることができる時代になると信じています。技術のあり方も変わってきます。その担い手が皆さんであると期待しています。

最後に、5年間の高専生活を送る上で大切にしていきたいことを三つ述べ締めくくりたいと思います。

一つ目は、高専らしさを追求してほしいということです。高専は高校とは違います。大学入学に向けた受験勉強はありません。15歳から科学的思考を備えた実践的で創造的な技術者の養成を目指して教育を受けます。この良さについて考え、この特徴が発揮できるよう自分のスタイルをつくっていただきたい。

二点目は、先に述べたような長所はありますが、ともすれば受験勉強がないため、勉強をおろそかにする学生も生じます。長所が短所にならないように、しっかりと勉強してほしいということです。自学自習を毎日欠かさないようにしてほしいと思います。

三点目は、これからの学校生活は5年間と長いです。時間も十分あります。そこで、自分の興味ある分野にも勉強や活動の場を広げ、幅のある自分を創っていただきたいと思います。

私たち教職員は、皆さんの持っている力を引き出すよう頑張ります。あなた方もその期待にこたえ、自らを太く大きくしてください。皆さんのこれからの学校生活が、かけがえのない青春にふさわしい、充実した実りある時になることを祈って、お祝いと歓迎の言葉といたします。

平成29年4月5日

鈴鹿工業高等専門学校長
新田 保次